

令和元年度 第1回大府市環境審議会 議事録

日 時：令和元年7月9日（火）午前10時30分～

場 所：市役所 会議室 001・002

＜委員出席者＞ 14名（敬称略）

千頭聡（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）、西村和子（大府市教育委員会教育委員）、村瀬由理（大東小学校教諭）、野末治（愛知県尾張県民事務所知多県民センター環境保全課課長）、伴博（区長会会長）、濱嶋淑子（大府市地域婦人団体連絡協議会会長）、鈴置満喜夫（大府市環境美化推進員）、鈴木きよ子（あいち知多農業協同組合女性部大府地域部長）間瀬計行（大府商工会議所事務局長）、小椋和美（大府市生活排水クリーン推進員）、坂野好子（バンノ自動車商会代表者）、山下琢司（株式会社豊田自動織機大府工場 安全・総務部 環境室室長）、相木徹（オオブユニティ株式会社代表取締役）、武田生子（公募委員）

＜事務局等出席者＞ 7名

大府市長（岡村）、市民協働部長（丸山）、環境課長（猪飼）、環境課環境衛生係長（近藤）、環境課環境保全係長（植木）、環境課衛生係（吉田）、環境課保全係（山田）

＜傍聴者＞ 1名

＜議事概要＞

1. 開会

2. あいさつ

大府市長あいさつ

千頭会長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 大府市環境基本計画の改定について（諮問）

5. 議題

（1）環境マネジメントシステムに関する取組について

《平成30年度環境マネジメントシステムの実績について》

- ・環境保全率先行動計画による温室効果ガス総排出量原単位は4%の削減目標に対して4.00%の削減で達成
- ・環境保全率先行動計画によるエネルギー消費量（原油換算値）は4%の削減目標に対して0.71%の削減で未達成
- ・前年度と比較し真夏日が増加したため空調の利用が多かったと考えられる
- ・電気、LPガス、ガソリン、軽油、灯油、重油、水道水使用量、OA用紙類等購入

枚数の使用量は削減目標を未達成

- ・環境基本計画の4つの基本方針毎に設定された指標について、12指標のうち、4指標が達成、6指標が未達成、2指標が評価未実施
 - ・環境基本計画の最小単位である個別施策の達成状況を事業毎にまとめると、70事業中49事業が達成、20事業が未達成、1事業が未実施で達成率は71.01%
 - ・環境法規制の遵守評価結果はすべての課・施設において遵守ができていた
- 《令和元年度環境マネジメントシステム目標について》
- ・環境保全率先行動計画では原単位削減目標として平成26年度を基準に平成32年度までに6.0%の削減、各エネルギー使用量削減目標として平成26年度を基準に令和元年度は5.0%削減を設定する

【質疑応答】

- (委員) 原単位削減を達成した中で主な原因(対象施設の延床面積が増えた等)は何か。
- (事務局) 主には二酸化炭素排出量を算出する際に使用する排出係数に変動があったため削減したことが考えられる。
- (委員) 水道使用量とOA用紙購入量についてこちらは総量での算出になっているか。
- (事務局) 総量の算出で、近年児童数の増加により水道使用量、OA用紙購入量は増加している。
- (委員) 水道使用量やOA用紙購入量についても原単位(一人当たりの量)で算出するとよいのではないか。
- (事務局) 原単位にすると個々の使用量から削減努力等が見えてくるかもしれないので、参考にしていきたい。
- (会長) 現在、目標達成が難しい状況の中で、目標達成に向けて努力していることはあるか。
- (事務局) 職員の意識による努力の部分は浸透しているため、施設の照明のLED化など、設備更新を他課に検討するよう話をしている。LED化については指針を示すなどして進めている。

(2) 平成30年度大府市一般廃棄物処理実績について

大府市一般廃棄物処理実績について

《令和元年度目標》

- ・原単位：平成16年度1,068g⇒令和元年度855g
- ・資源化率：平成16年度22.3%⇒令和元年度34.7%

《平成30年度排出量実績》

- ・前年度と比較して、全体排出量において74tの増加
- ・家庭系では、253t削減、事業系では、327t増加

《平成30年度原単位実績》

- ・前年度と比較して、家庭系及び事業系を合わせた量は減少している。

《平成30年度資源化率実績》

- ・家庭系では、紙類、金属類、ビン類が減少し、資源回収全体で231tの減少

- ・事業系では、食品残渣が増加し、事業系資源回収全体で 86 t の増加
- ・東部知多クリーンセンターの新焼却施設の稼働により廃棄物のメタル・スラグ化ができるようになり、資源化量が 389 t 増加
- ・資源化率は 25.7% であり、0.8 ポイント増加

《平成 30 年度生活排水処理実績》

- ・前年度と比較して平成 30 年度末での水洗化人口は横ばい状況である。浄化槽・し尿汲取り量は減少。

【質疑応答】

- (委 員) 資料に記載のある表の数値と概要解説文の内容が違う部分があるが、どちらが正しいか。
- (事務局) 表の数値が正しいため、そちらに訂正していただきたい。
- (委 員) 東部知多クリーンセンターを見学させてもらった。廃棄物をスラグ化できるようになり、資源化量が増えたとのことだが、路盤材等で活用は進んでいるか。
- (事務局) 東部知多衛生組合から構成市町には公共工事にて活用するよう依頼が来ている。JIS 規格の取得を目指しており、取得できれば活用が広がっていくと考えられる。
- (委 員) 路盤材として使うにもスラグの価格が高すぎると業者に使用してもらえないと思うが、調整はしているか。
- (事務局) 東部知多衛生組合がスラグの利用が進むよう市場価格等を見ながら価格を調整していると聞いている。
- (委 員) 家庭用ごみについては表に人口が記載されごみの増減に対して考察がしやすいが、事業用ごみについても事業所数などの増減の理由が考察しやすい指標になるような数値があるとよいのではないか。
- (事務局) 事業所数については手元に資料がなくすぐにはわからないが、事業所数のごみの増減の理由になることは考えられるため、参考にしていきたい。
- (会 長) 現在は原単位については家庭系、事業系ともに人口割にしているが、よりわかりやすい数値になるよう研究していただきたい。
- (委 員) 下水道の普及について他市では市街化調整区域でも下水道普及を行っているようだが本市ではどうか。
- (事務局) 本市では下水道は市街化区域に拡大し、市街化調整区域については下水道を普及する予定はない。市街化調整区域については合併処理浄化槽を利用させていただく。
- (会 長) コスト面と迅速に水洗化ができるという面では合併処理浄化槽も良い点である。バイオマス発電について、受入量は増えているか。
- (委 員) 他市の生ごみ受入施設が利用できなくなった影響もあり、受入量は増加しているため、発電効率は高い水準を保っている。生ごみのため、一時保管ができず季節によって微生物の活動状況も変わるため、受入を調整をしながら行っている。

(3) 美しいまちづくり表彰について

- ・平成27年度から始まり、「健康都市おおぶ」みんなで美しいまちをつくる条例の規定に基づき、実施する
- ・今回、各自治区から推薦された3名について、審査する
- ・表彰は産業文化まつりにて行う予定

【質疑応答】

- (委員一同) 質疑・異議なし
⇒ 3名を表彰する

6. その他

- ・大府市環境基本計画の改定における今後のスケジュールについて
- ・第2回大府市環境審議会は3月実施予定